

三中だより

令和5年度 7月号



令和5年7月8日発行
荒川区立第三中学校
(学校通信 No. 6)
校長 小柴 憲一

情報と情報の戦い、そして情報との向き合い方

我が国の政治では、政策を国民に対して発表する側とそれを批判する側の間で議論が盛んになる傾向があります。

一方、海外に目を向けると、一つの事案に関して一国と一国が互いに「自分たちの責任ではない。相手の責任だ。」と言い合う場面が見受けられます。また、一国の中でも政治的な実力者同士が、互いに相手の弱点を指摘し合ったり、感情でののしり合ったりすることもあるようです。

私たちは、それらの情報を新聞・テレビ・SNS・WEBサイトなどのメディアを通して入手していますが、大切なことは必要な情報を収集して判断すること、また、正確な情報かそうでないかを冷静に取捨選択すること、また真偽の判断がつかない情報で判断してしまったり自分の思想を確立したりしないなどの、いわゆる情報活用能力です。

かつて、我が国でメディアが新聞程度しかなかった第二次世界大戦のころ、戦争の大義を訴えたとともに、我が国の被害状況は過小評価し、相手に与えた損害を大々的に表現していたと言われています。そして、結果的に、国民に戦争に対する肯定的価値観をもたせたり、国民の戦意を高めていったりしました。

一方、本校では輝夕祭展示の部で荒川区が受けた尾久初空襲のコーナーを設けていますが、この空襲は、日本の政治的・経済的中心であった東京が空襲を受けたという大事件であり、語り部の方の証言からも被害は甚大であったにも関わらず、当時の新聞記事では、記載面がわずかであることと被害は微々たるものであることなど、国民に対して危機感を募らせることはありませんでした。

さらに遡ること、1905年には日露講和会議の内容が報道されると都市部を中心に反対運動が起こり、数万人が日比谷公園に集合し警察署・派出所・交番などを焼き討ちしましたが、この事件をのちに日比谷焼打事件と言うようになりました。日比谷焼打事件の原因については、日露戦時下、我が国において増税等による生活苦や戦争で多大な犠牲が生じたこと、戦勝報道であおられた過大な講和条件への期待が裏切られたことなどが指摘されています。なお、本事件の際、唯一、我が国の厳しい状況と講和条約の妥当性を伝えていた新聞社も群衆に包囲されたと言われています。

我が国の歴史をたどって見えることは、「情報の正確性や真偽は別として、人は自分に都合のいい情報に対しては容易に受け入れ、同じ価値観をもった人々と強い連帯感をもつこと、逆に自分の理想や価値観にとって不都合な情報は切り捨てたり、見たくない情報に対しては目をつむってしまったりする」傾向があると思われます。

今の子どもたちが、我が国の政治や海外の事象に対してどのような感想をもっているのかわかりませんが、情報活用能力を育成する教育活動は本校でも行われています。

その最たるものが、調べ学習で校内弁論大会にもつながる作品づくりです。また、優秀な作品は修正を加え「図書館を使った調べる学習コンクール」にも応募しています。

この学習では、タブレットを用いて調べるだけではなく、書籍でも調べます。ネット情報は容易に入手しやすい便利さがありますが、誰でもアップロードすることができるため、正確性・真偽に

については不明な点があります。しかし、書籍は出版社がその社運をかけ校正をかけ、執筆者名も公表した上で出版するわけですから確実な情報を発出していると思われ信憑性としてはかなり高いものです。

子どもたちは、あらゆる情報を調べ、いくつかの正確な情報をもとに自分の論旨を固めていき、さらに論旨の根拠として必要なデータや資料を引用し作品を構成していきます。ですから、人によって視点が違ったり着目する情報が異なっていたり、そもそも論旨が違う場合もあるのです。情報というのはこのように扱われなければならないのです。

一つや二つの少ない情報で事象を判断してしまったり、情報も知らずに他人の判断に基づく表現に単に同調したりするのは、情報に操られていることになってしまいます。SNS上では、ありとあらゆる情報が発信されています。身近なところでいえばグループ内で情報を発信し合うアプリなどで一つの情報をもとにいじめが生じることもあります。発信する人に問題があるのは当然ですが、それに瞬時に共感してしまう側にも問題があるのです。

冒頭にも述べたとおり、情報と情報は戦いあっています。しかし、一番重要なのは民意に流されず冷静に双方の情報を収集するとともにその背景を考え、真偽のほどが判断できない場合は、そこで自分の立場を決めず、正確な情報・必要な情報が発信されるのを待つことなのです。

お子さんたちのスマートフォンやパソコンの使用技術は大人を越えるほど高まっているとともに、保護者でも知らない情報を入手している場合もあります。しかし、情報化社会を生きていくお子さんたちに対して、情報との付き合い方を、学校と保護者の皆様が同じ考えで教えていってあげていきたいものです。

「新型コロナウイルス感染症」とは「季節性インフルエンザ」同様に長い付き合いに

本年、5月8日に新型コロナウイルス感染症が、感染症法上二類から五類に移行され、季節性インフルエンザと同じ分類になりました。それに伴い、文化・スポーツ・社会活動がコロナ渦前と同様に行われるようになりました。本校の教育活動におきましても、●入学式では来賓をお呼びしたり、●修学旅行では班行動中に各班の判断で昼食をとることを可能にしたり、●運動会では在校生席を大幅に縮小して保護者観覧場所を拡大したり、●日々の給食ではおかわりもできるようにしてきました。また、地域行事も過去のように開催されるようになり、本校の子どもたちも初体験のボランティアに参加しました。

ただし、新型コロナウイルス感染症は終息しているわけではなく、本校でも4月から6月までで延べ19名の子どもが感染しています。また、季節性インフルエンザと違って季節を選ぶことなく感染は拡大するようですので、これからの夏休みでも気を抜くことはできません。

できることは、絞り込むと2点です。

1 空気を滞留させることなく、ウイルスがあつたとしても拡散させることです。

学校では、各教室にCO₂モニターがあるので、それが1000ppm以下になるように常に換気をしています。皆様も、今自分がいるところが換気されている状況かどうかを確認されることをお勧めします。

2 接触感染を防ぐために常に手を清潔にすることと、不衛生な手で顔などを触らないようにすることです。

学校では、登校後の手洗いをはじめとして、休み時間、給食前、昼休み後に手を洗うことを指導しています。皆様も、共用物に触れた後などに、手を洗うまでにその手で顔などに触らないようにする習慣を身に付けてみてください。

季節性インフルエンザが毎年冬に流行期を迎え、私たちは感染防止に努めていますが、新型コロナウイルスについては、季節関係なく、これから長く付き合っていかなければならない感染症だと思われます。

長い1学期だったように感じますが、本校の1学期の子どもたちの活動を振り返ってみます。



クラス替えのあった始業式



新入生147名



新入生オリエンテーション



川の手荒川まつりボランティア



生徒総会



修学旅行



東京都障害者スポーツ大会



運動会



胡録神社大祭ボランティア



汐入小運動会ボランティア



清里移動教室



学習



三中てらこや



三組清里移動教室



鉄人レース・イン・汐入ボランティア

夏休みを迎えるにあたって

先日の保護者会でお伝えしたと重複する部分もあるかと思いますが、子どもたちの生活は学年によって異なってきます。

3年生は受験生。したがって、この夏休みで苦手な個所を克服したり、得意な教科を先取りしたりなど学習に力を入れなければならないことは言うまでもありません。塾のカリキュラムだけに頼るのではなく、自分の学習計画に即した学習ができた方が、将来的には望ましいことです。ぜひ、お子さんが、「自分にとってどのような学習が必要なのか」を考えて取り組むよう話してあげてください。

1・2年生は、部活動など登校する機会はあるかもしれませんが、学習をおろそかにしてはいけません。成績の差が開いていくのは、長期休業日を過ぎたあとという過去の実績があります。規則正しい生活の中に学習を取り入れるようご指導願います。

部活動によっては、活動日の多い部、少ない部がありますが、学期中の長時間労働を相殺するためには、教員にも「休むこと」が必須です。本来であれば、日々の勤務時間終了後の労働・週休日の部活動やボランティア生徒の引率業務等の長時間労働分をもって休みに充てられればいいのですが、そのようなシステムはありませんので、教員に対しては年次有給休暇の取得を奨励してまいります。保護者の皆様には、どうぞご理解くださいますようお願い申し上げます。

お知らせ

- フライングディスク競技 アキュラシー ディスリート5 12歳以上の部で以下の成績を収めました。
A1組 3サイト 銀メダル 大渡 晃己 A1組 5サイト 銅メダル 大堀 真澄
A2組 1サイト 金メダル 張 一泓 A2組 2サイト 銀メダル 小畑 柊
フライングディスク競技 ディスタンス メンズ・スタンディングで以下の成績を収めました。
D2組 1サイト 金メダル 小野 高大
この結果、張 一泓、小畑 柊、小野 高大の3名は、東京都代表として10月下旬に鹿児島県で開催される全国大会に出場することが決定しました。
- 荒川区夏季総合体育大会バドミントンの部で以下の成績を収めました。
男子団体の部 第3位
女子団体の部 第3位
男子シングルの部 第3位 野口 寛貴
女子シングルの部 第1位 中條 珠妃
女子ダブルスの部 第3位 川崎 結衣・竹田 春菜
この結果、女子団体と女子シングルス中條 珠妃はブロック大会に出場することが決定しました。
- 荒川区中学校総合体育大会バレーボール女子の部で以下の成績を収めました。
第3位
- 選手権大会バレーボール女子の部で以下の成績を収めました。
第3位
この結果、ブロック大会に出場し、ブロック5位の成績を収めたため、都大会進出が決定しました。
- 第74回東京都中学校地域別陸上競技大会で以下の成績を収めました。
男子東部1年 100m 第2位 水谷 朝陽 記録12秒15
この結果、水谷 朝陽は「第62回中学校総合体育大会陸上競技大会兼第76回中学校陸上競技選手権大会」並びに「第69回全日本中学校通信陸上競技東京大会」に出場することが決定しました。
- 荒川区中学校総合体育大会卓球の部で以下の成績を収めました。
男子団体 第2位
女子団体 第2位
この結果と個人戦の順位結果から、団体では女子、女子個人では内田 はな、伊藤 紗英佳、男子個人では大杉 真吾、大岩 勇翔、小笠原 賢人、大杉 司の都大会進出が決定しました。
- 荒川区総合体育大会バスケットボール部男子の部で以下の成績を収めました。
第3位